

【第 58 回セミナー受講者からの感想・ご意見】

2021 年 5 月 7 日（金） 15：00～18：00
パシフィコ横浜 第 1 会場 1F「メインホール」

■ 感想

- 教育の話や、歴史の話などいつもとは違った切り口の内容で勉強になった。（多数）
- 検査に関する講演はこのような学会やセミナーでないと聴講する機会がないため、大変勉強になりました。（多数）
- 明日からの業務に参考にさせていただきます。ありがとうございます。
- 抗菌薬の適正使用に関わっておりますが、薬剤師として今後の業務で見直さなくてはならないと感じることもできました。
- 治療に対する考え、知識のためになりました。

■ 各論に関すること

- 長尾先生ありがとうございました。薬剤師でも分かりやすい講演でした。京都弁最高です。
- 今回のセミナーは多くのことを勉強することが出来ました。抗菌薬適正使用、AMR 対策について、まずはデータありき、使用料を減らせ、薬剤耐性菌の割合を減らせと言います。抗菌薬は公共財であり、普通の薬剤とは異なると思います。次世代に今の抗菌薬がしっかり敬称できるためには何をしなければいけないのかを考え抜くことが医療従事者の使命です。また、1 症例 1 症例を大切にしなければなりません。本セミナーに参加し、このことがきっかけにしたいと思います。先生方、有り難うございました。
- 当院では技師の先生方との接点が乏しい点も多く、細菌検査に対する認識が改めて必要であると痛感しました。また、産官学連携での抗菌薬治療に対する意識も乏しいと自覚いたしました。今回の内容は AST に属する自分としては、とても勉強となる内容でした。ありがとうございました。
- これまでうけてきた教育セミナーは「こんな病態で、どんな抗菌薬をえらぶか？」という話がメインでしたが、今回のセミナーでは、限られた抗菌薬の中で、どうえらぶかと、むしろ一番現場に近い話で、考えさせられた。また、ここ最近問題になっている抗菌薬の安定供給のことを、これまでの歴史、社会的背景を含め勉強することができました。後輩、若手にも伝えたい内容でした。
- 石和田先生の話聞いて、薬学部の大学では、表面的なことも多く勉強していた気がします。実習生に抗菌薬について質問しても難しく分からない。という回答が多かった気がします。今後は大学、新人の時に抗菌薬について学んでいかなければいけないと思いました。
- 抗菌薬適正使用について、今回特に印象的だったのが、最初はとりあえず広域抗菌薬にしておいた方が有効性が高い可能性があるという考え方が多い中、広域抗菌薬から始めた方が狭域抗菌薬から始めるよりも致死率が高いという点が驚きました。De-escalation という考え方が広がりつつある中、最初から狭域抗菌薬をはずさないナローになろう！という今回の講義は普段から適正使用に関わっている我々にとって革新的な言葉だと思いました。
- AST,ICT の活動をするようになって、何故抗菌薬が使われているのか不明な事が多く、これはどうなんだろう？と思うことが多く、介入すべきか迷っているうちに終わっていることが多く、自分が何

をしているのか分からなくなってしまうと一旦離れたくなる事があったけど、最近、これは ICD に相談してみよう！と思うことがあり、今日のお話を聞いて、“適正使用”を考えると混乱してくるけど“明らかに NG なもの”と考えるので良いのなら、気持ちが軽くなりました。ありがとうございました。外科で採血なし抗菌薬が始まっていることが多く、モヤモヤする事が多かったのですが、血培が不要な場合と、必要な場合と判断出来る様にいろんな患者さんを見ていこうと思いました。上司からもうちの AST は大した事をしていないと言われてたり、私の病院ではまだまだ ICT/AST 活動が十分に出来ていないと思うし、介入する頃には手遅れ事も多いので、お今回の学会中に色々と吸収してより良い活動が出来る様に自分の病院で出来そうな事を見つけたいです。

■ 症例について

- 検査が 1 回陽性だった場合の陽性的中率、陽性尤度比といった数値の議論を臨床の場で行うべきなのではないかと思いました。
- 外科 ope 術後の監視培養はみられるので、耳の痛い話でしたが、AMR として取り組むべき項目だと改めて感じました。
- 当院では昨年度より AST が発足したため、培養依頼などを行い、検査結果自体は増えました。しかし Dr. の意識自体は大きく変わっているようには思えていません。抗菌薬開始時や変更時に必要な培養がとられておらず、後日臨床症状から原因菌を予測したり、効果反応をみて培養提出を後手に出してもらおうなど、タイムラグが歯痒いです。「いらぬ検査」というワードが心に残っていますが、当院ではまず「必ずいる検査」をどうクリアするかが課題だと改めて感じました。G 染色は当院だと外注になってしまうので、ほとんどオーダーされず、培養提出で判断になってしまうのでナローでの開始がしにくいです。G 染色をすすめていきたいですが、検査科のマンパワー的に難しいとされてしまいました。中小病院やクリニックなど規模の小さい病院などで G 線セ欲をすすんで取り組んでおられる場所がありましたら、そのノウハウや効果等もご教示いただける機会があると嬉しいです。

■ 今後のセミナーで希望するテーマや内容

- 他の病院でどういう活動をされているのかも知りたいです。
⇒本セミナーで、今後、このご要望にお応えできるような企画ができないか、考えてみます。
- 以前から検査に関わる用語がややこしく覚えにくいです。
⇒具体的にどのような用語でしょうか？次回ご受講になる際にアンケート用紙に具体的にお聞かせ下さい。